

## 全国学力・学習状況調査の結果について（概要）

千葉市教育委員会

千葉市の児童生徒の調査結果について公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、各学校の教育活動を多角的に評価・分析した結果と合わせて、学校教育活動の改善に努めてまいります。

## 1 調査の概要

- (1) 調査実施日 平成 28 年 4 月 19 日（火）  
 (2) 調査対象 小学校 6 年生、中学校 3 年生  
 (3) 調査内容 国 語 A 問題（主として知識）、B 問題（主として活用）  
 算数・数学 A 問題（主として知識）、B 問題（主として活用）  
 質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習習慣、生活習慣等）

## 2 教科別結果概要

（平成 28 年度と悉皆調査実施年度との比較）

(1) 全国・千葉県・大都市の平均正答率(%)と千葉市全体の結果（ここでの全国は、公立のみを示す）

【資料 1】問題別平均正答率一覧(%) [全国・千葉県・大都市・千葉市] <平成 20~28 年度>

		「知識」に関するA問題					「活用」に関するB問題					
		全国平均正答率	千葉県平均正答率	※大都市平均正答率	千葉市平均正答率	全国平均との比較	全国平均正答率	千葉県平均正答率	※大都市平均正答率	千葉市平均正答率	全国平均との比較	
小学校	国語	平成28	73	73	73	73	+ 0	58	58	59	59	+ 1
		平成27	70.0	71.5	70.3	72.8	+ 2.8	65.4	64.5	65.9	65.6	+ 0.2
		平成26	72.9	75.8	73.3	77.1	+ 4.2	55.5	55.5	56.3	57.3	+ 1.8
		平成25	62.7	61.9	63.4	64.2	+ 1.5	49.4	50.1	50.9	52.6	+ 3.2
		平成21	69.9	71.0	70.5	72.8	+ 2.9	50.5	51.3	52.1	52.1	+ 1.6
		平成20	65.4	66.7	66.5	69.6	+ 4.2	50.5	51.4	52.1	54.1	+ 3.6
	算数	平成28	78	77	78	77	- 1	47	47	48	48	+ 1
		平成27	75.2	74.7	75.7	76.4	+ 1.2	45.0	45.1	46.4	47.5	+ 2.5
		平成26	78.1	78.2	78.3	79.8	+ 1.7	58.2	58.8	59.6	60.6	+ 2.4
		平成25	77.2	77.1	77.5	78.5	+ 1.3	58.4	59.4	59.8	62.3	+ 3.9
		平成21	78.7	79.8	79.3	81.6	+ 2.9	54.8	56.3	56.7	58.6	+ 3.8
		平成20	72.2	72.8	72.8	75.0	+ 2.8	51.6	53.2	53.4	55.7	+ 4.1
中学校	国語	平成28	76	76	76	77	+ 1	67	67	67	68	+ 1
		平成27	75.8	76.0	76.4	77.6	+ 1.8	65.8	65.7	66.3	67.2	+ 1.4
		平成26	79.4	79.8	79.5	80.7	+ 1.3	51.0	51.7	51.5	53.0	+ 2.0
		平成25	76.4	76.2	76.5	77.7	+ 1.3	67.4	68.1	68.0	70.7	+ 3.3
		平成21	77.0	76.8	76.7	78.5	+ 1.5	74.5	74.6	73.9	76.7	+ 2.2
		平成20	73.8	72.8	73.6	74.3	+ 0.5	60.8	61.8	61.3	63.2	+ 2.4
	数学	平成28	62	60	63	62	+ 0	44	43	45	45	+ 1
		平成27	64.4	63.4	65.3	65.5	+ 1.1	41.6	41.6	43.0	44.9	+ 3.3
		平成26	67.4	66.7	67.7	68.3	+ 0.9	59.8	60.1	60.9	61.6	+ 1.8
		平成25	63.7	63.2	64.2	65.7	+ 2.0	41.5	41.5	42.5	45.0	+ 3.5
		平成21	62.7	61.6	63.1	64.1	+ 1.4	56.9	56.7	57.3	59.8	+ 2.9
		平成20	63.1	61.7	63.5	63.4	+ 0.3	49.2	49.1	49.6	51.3	+ 2.1

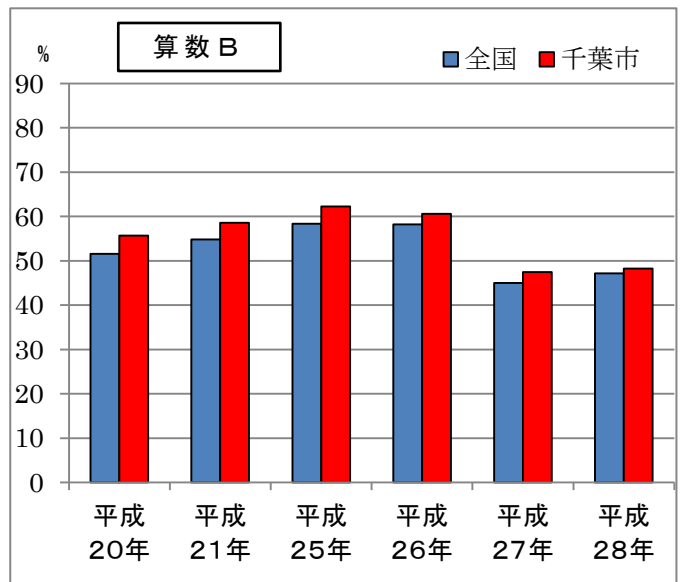
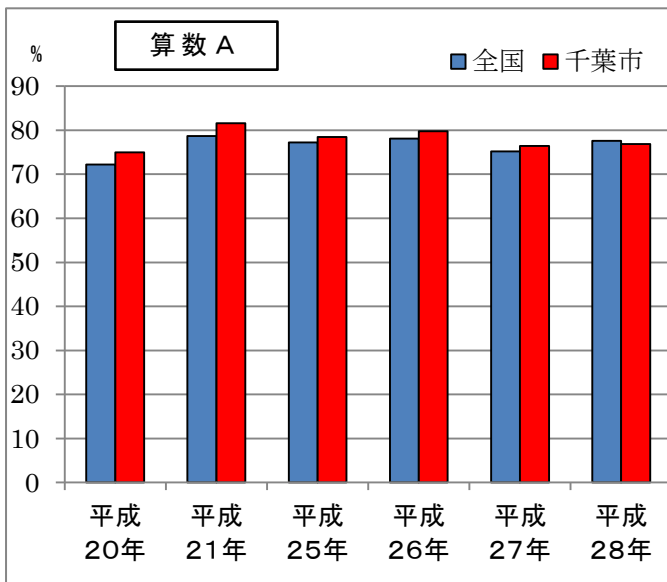
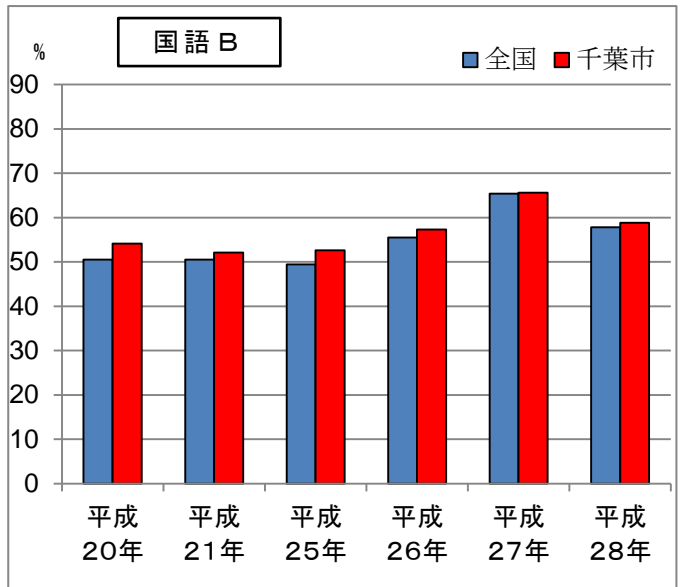
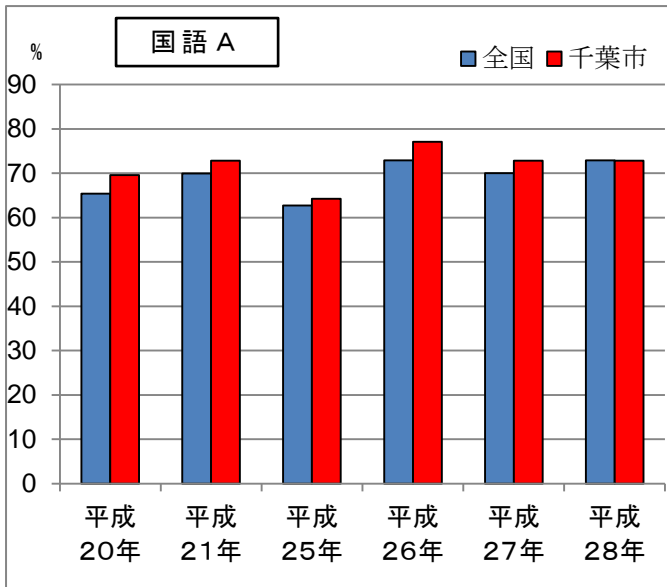
※28年度より平均正答率は整数値で公表

※「大都市」とは政令指定都市と東京23区

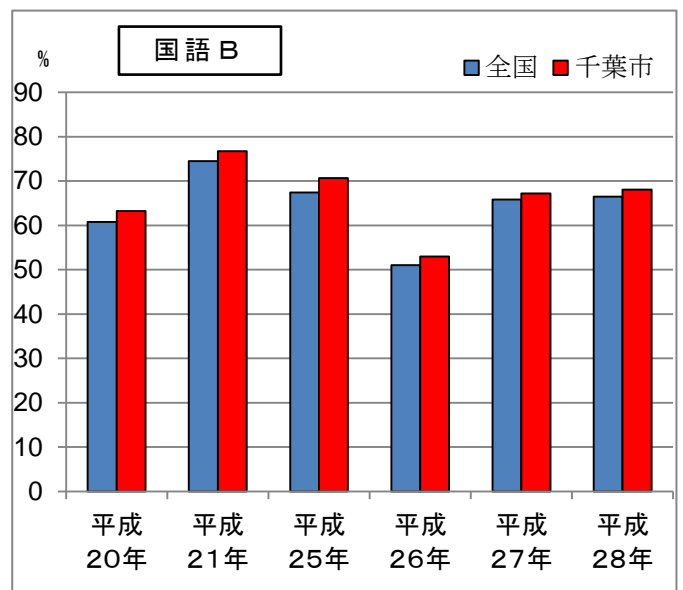
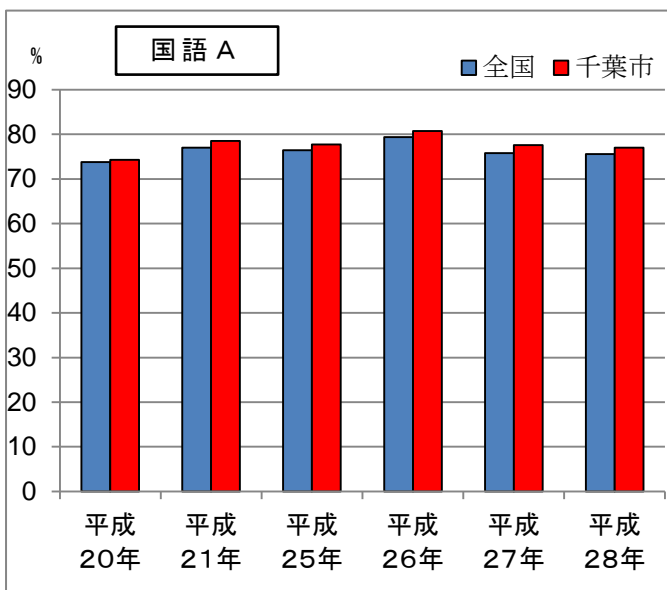
※平成22・24年度は抽出校の調査のため経年変化には加えていない(平成23年度は東日本大震災のため未実施)

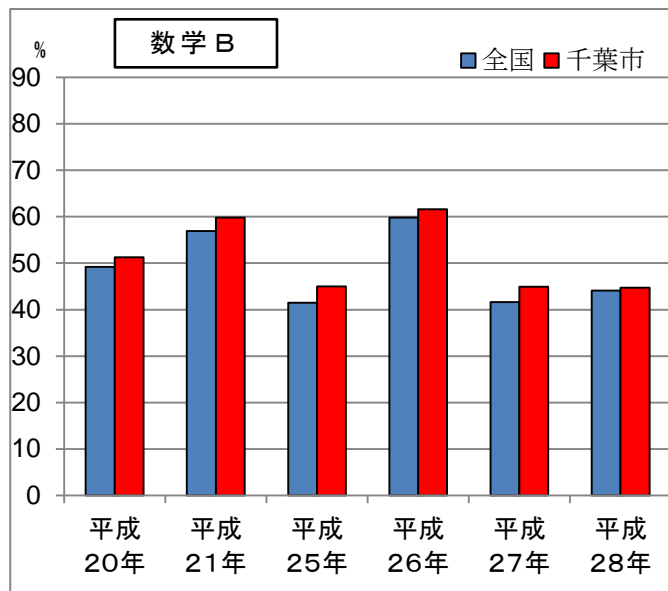
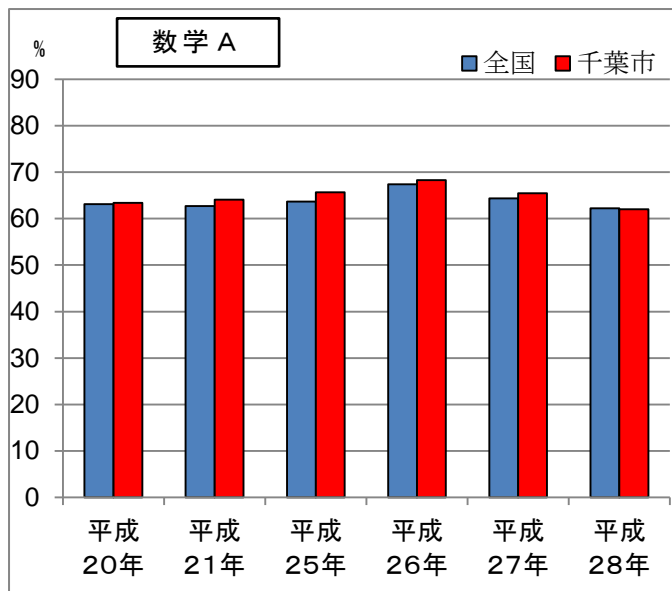
【資料2】教科別経年比較グラフ [全国・千葉県] <平成20～28年度>

ア 小学校6年生（横軸：調査実施年度 縦軸：平均正答率）



イ 中学校3年生（横軸：調査実施年度 縦軸：平均正答率）

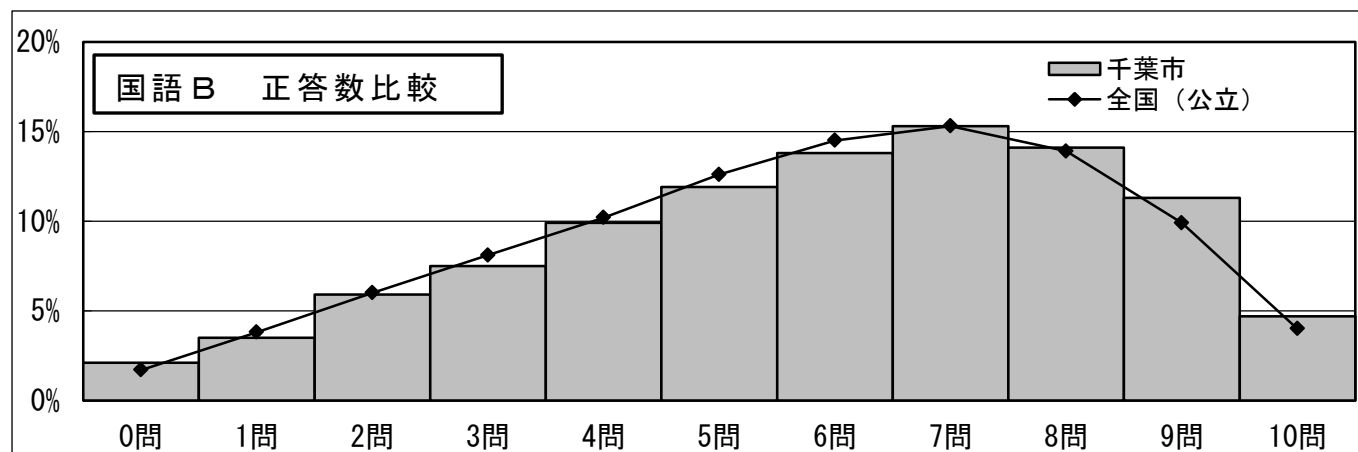
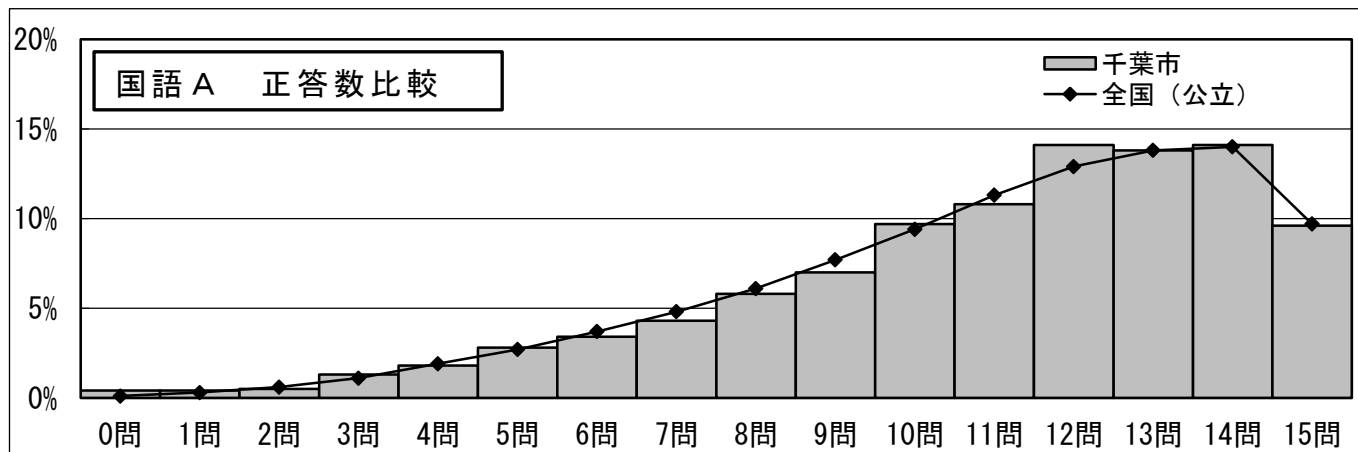


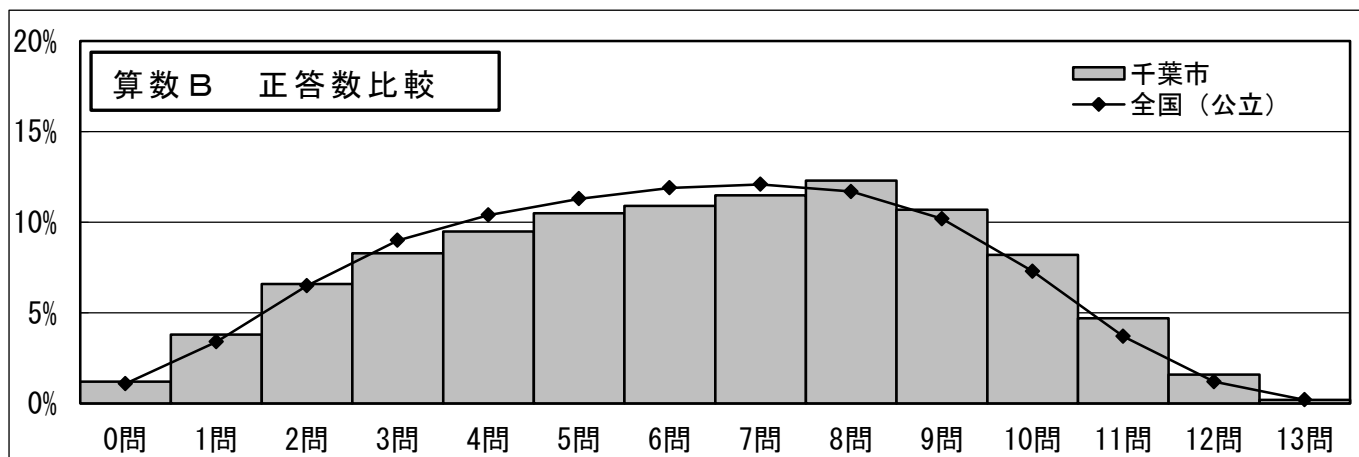
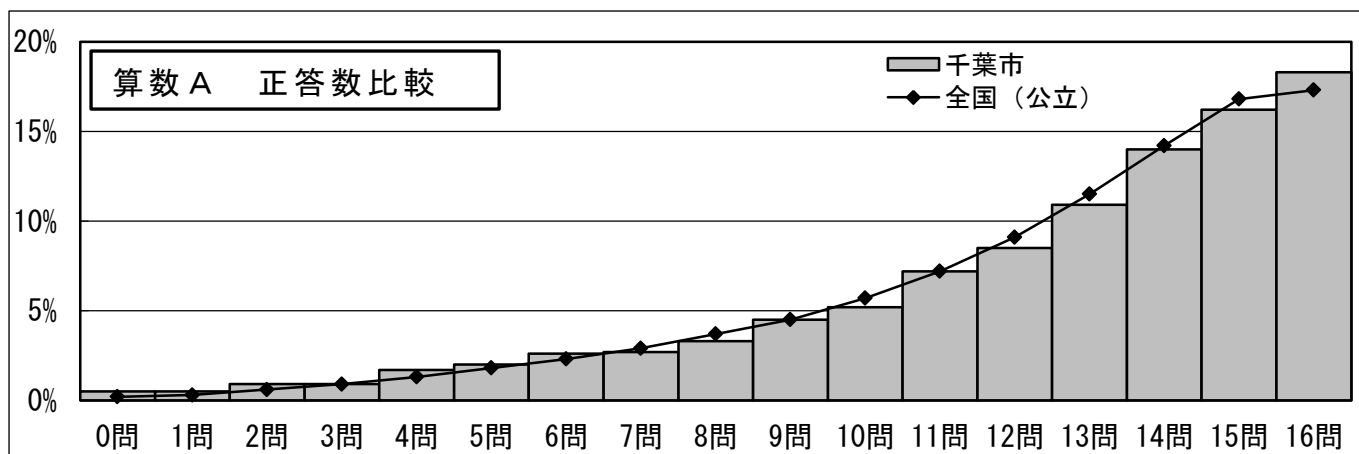


- ① 千葉市の小学校 6 年生、中学校 3 年生は、国語、算数・数学、いずれの教科・問題区分（A・B 問題）においても、千葉県の平均正答率と同等か上回る。
- ② 千葉市の小学校 6 年生、中学校 3 年生は、いずれの教科も B 問題（活用）は、全国の平均正答率を上回る。A 問題（知識）においては、小学校 6 年生国語、中学校 3 年生数学は全国の平均正答率と同等、中学校 3 年生国語は全国の平均正答率を上回る。
- ③ 平成 20 年度からの悉皆調査 5 回との経年比較をすると、全国の平均正答率との差は縮まりつつあるが、本市の結果はおおむね良好の状態を維持しているといえる。

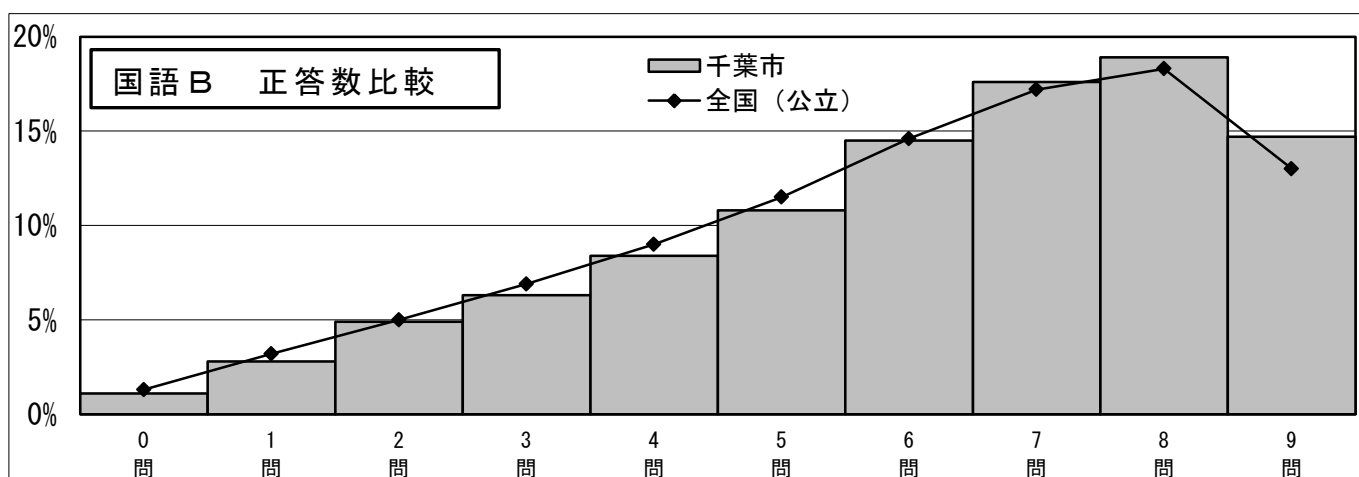
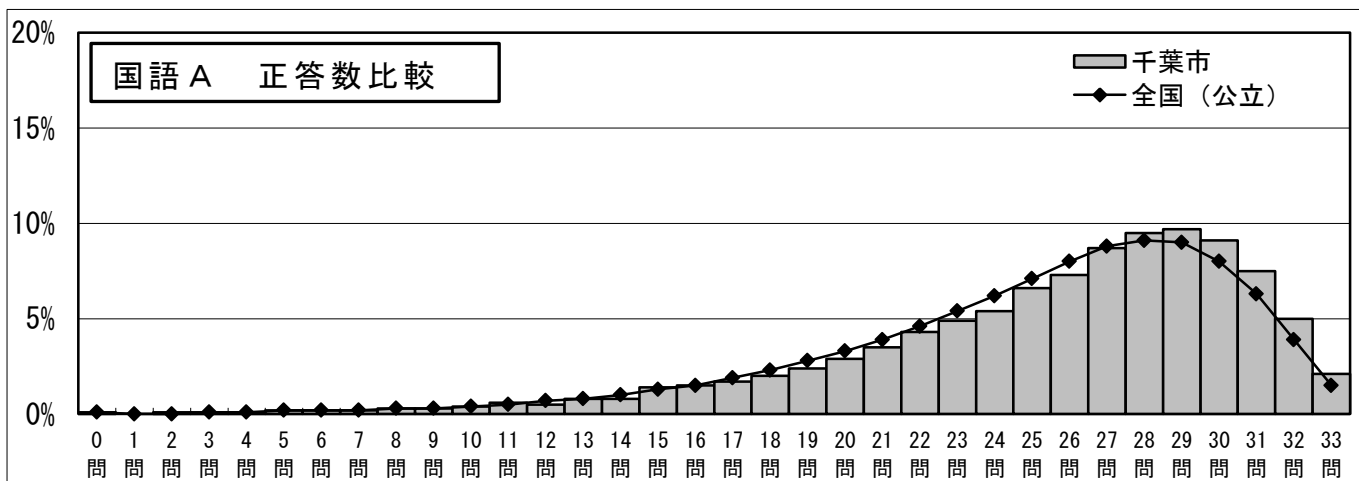
（2）正答数の分布（全国の比較）

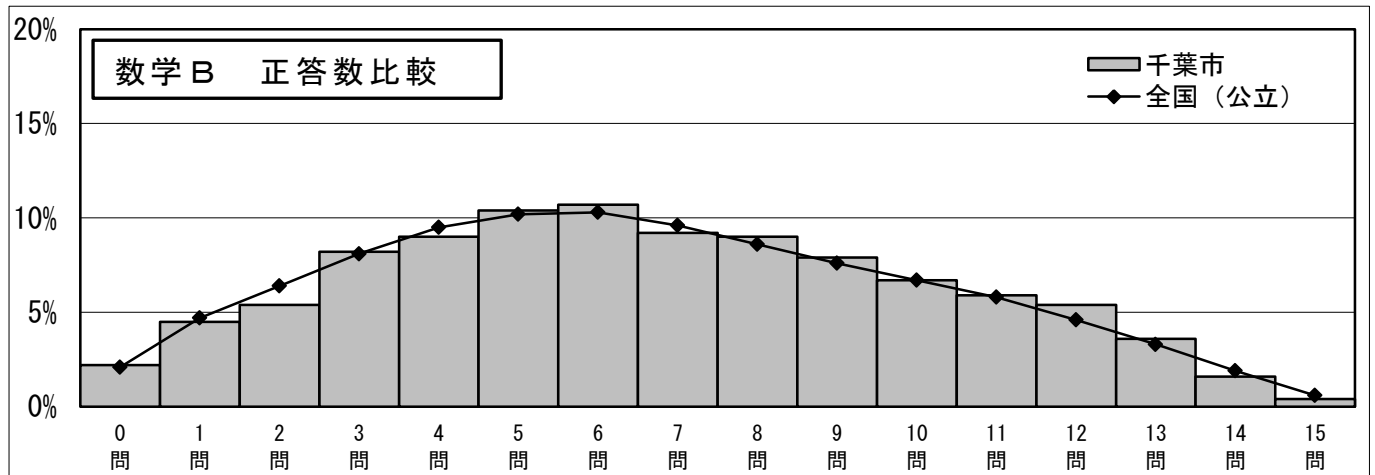
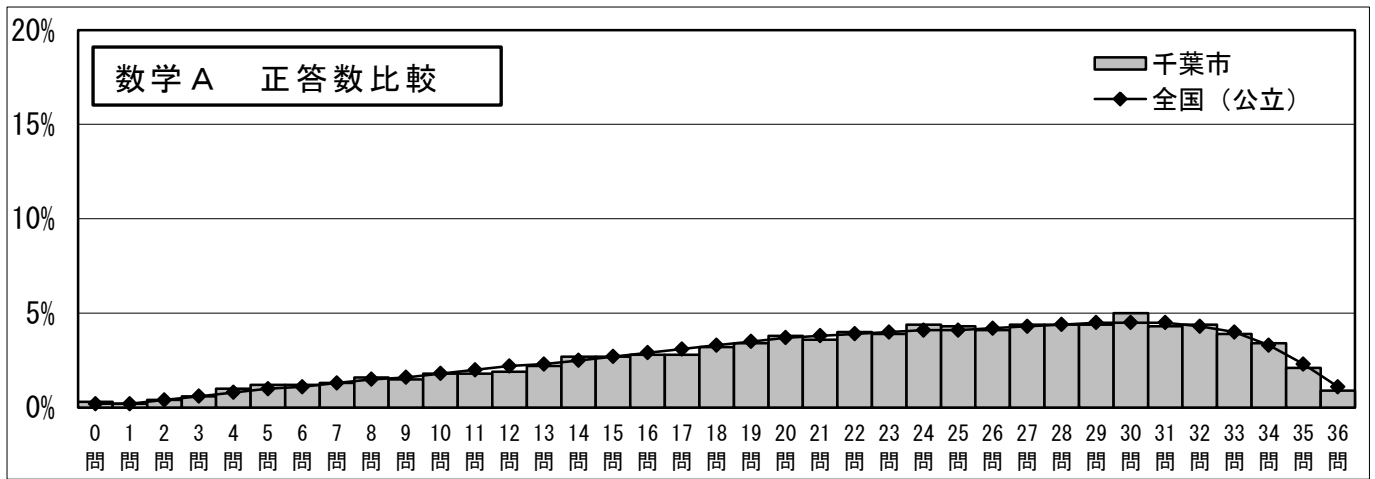
【資料 3】正答数分布（横軸：正答数、縦軸：人数の割合）[全国・千葉市] <平成 28 年度>  
ア 小学校 6 年生





イ 中学校 3 年生





① 小学校 6 年生

< A 問題 >

- ・国語は、全問正答の児童の割合は下がっているが、国語・算数ともに、全国と同様に正答数の多い児童の割合が高い、右上がりのグラフになっている。千葉県と全国を比較すると、算数では正答数の低い児童がやや多くなっており、この割合を下げるのが課題である。

< B 問題 >

- ・千葉県と全国を比較すると、国語・算数ともに、千葉県は中間層の児童の割合が低く、正答数の多い児童の割合が高く、平均正答率を上げている。
- ・A問題と比較すると、千葉県も全国と同様に、正答数の多い児童の割合が低くなり、中間層の児童の割合が高くなっている傾向がある。特に、算数では中間層の児童の割合が高く、なだらかな山型（正答数の最頻値は13問中8問）になっている。正答数の低い児童の割合を下げて、さらに山を右寄りに改善することが課題である。

② 中学校 3 年生

< A 問題 >

- ・千葉県と全国を比較すると、国語・数学ともに、ほぼ同じ右寄りの山型であるが、国語は中間層の生徒の割合が低く、正答数の多い生徒の割合が高く、平均正答率を上げている。

< B 問題 >

- ・千葉県は全国と同様、国語は右寄り、数学は左寄りの山型であるが、全国に比べて正答数の多い生徒の割合がやや高く、平均正答率を上げている。
- ・数学はA問題と比較すると、千葉県も全国と同様に、正答数の多い生徒の割合が低くなり、中間層（やや正答数の少ない）の生徒の割合が高く（正答数の最頻値は15問中6問）、さらに山を右寄りに改善することが課題である。

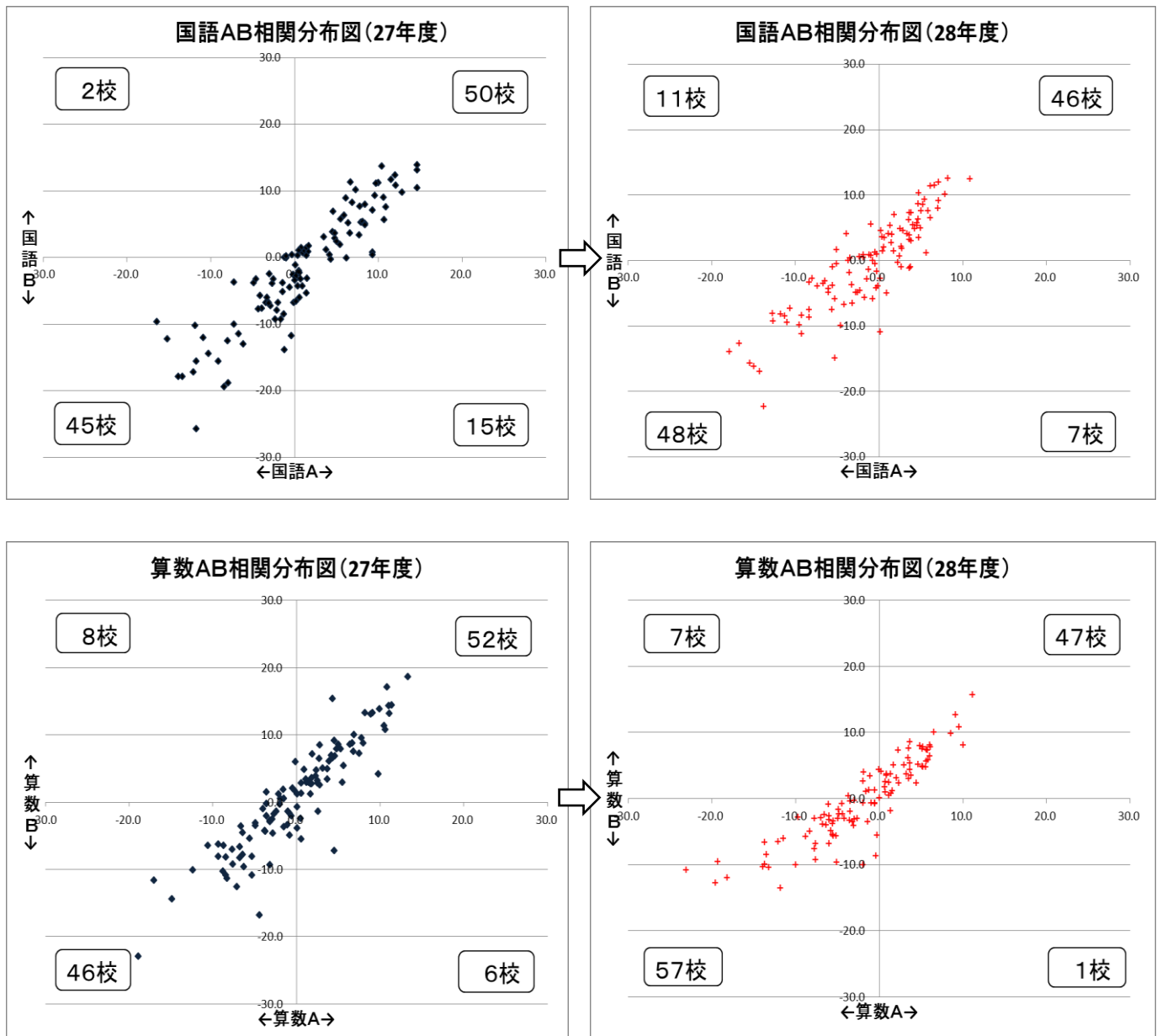
(3) 市内学校 A・B 問題平均正答率の相関関係＜平成 27・28 年度の比較＞

【資料 4】 市内学校 A・B 問題平均正答率の相関分布図

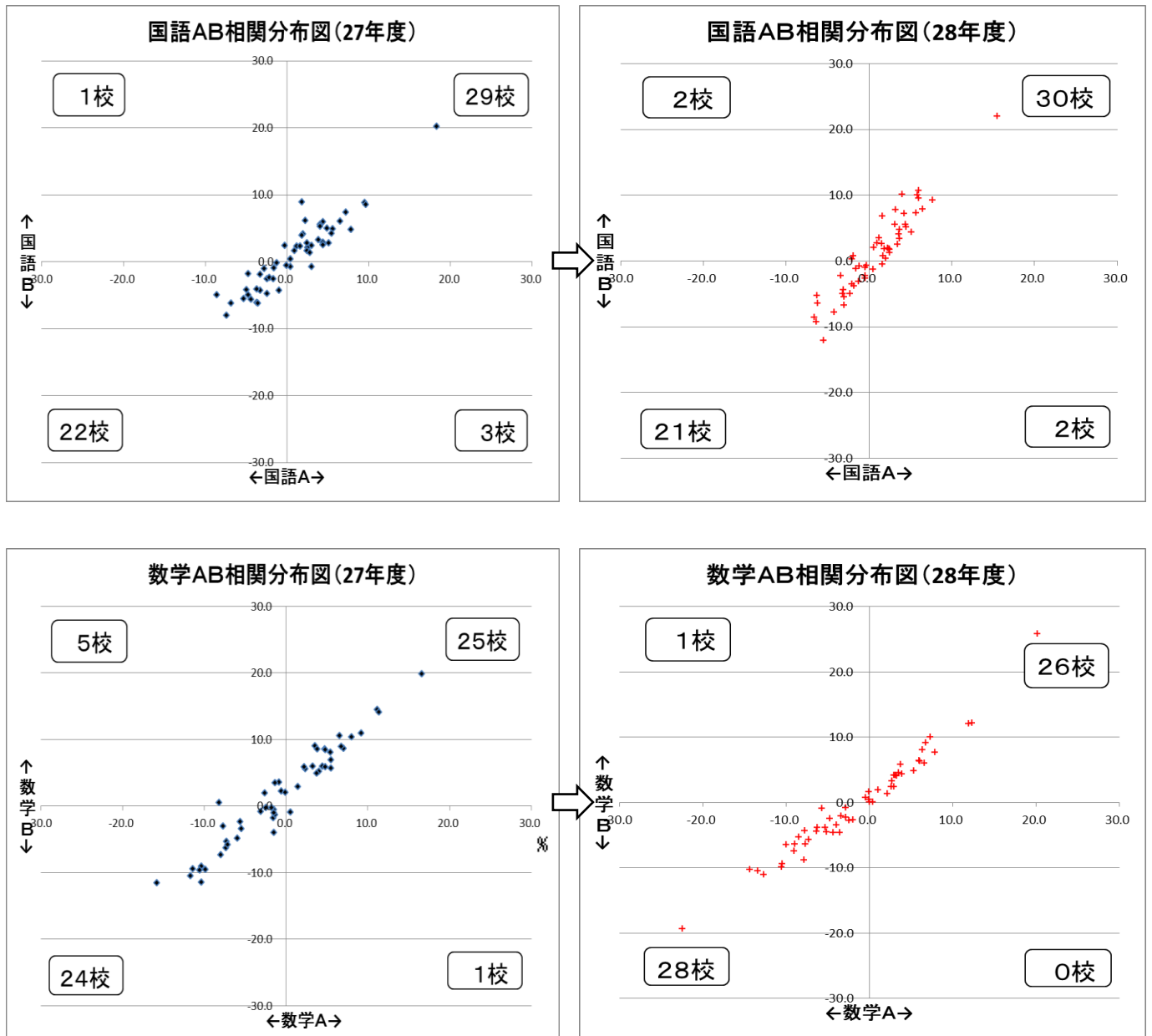
[ 数値は各学校正答率と全国平均正答率との差を示している ]

<p><b>第 2 群</b> A 問題は全国平均正答率を下回ったが、B 問題では全国平均正答率を上回った学校</p>	<p><b>第 1 群</b> A・B 問題ともに全国平均正答率を上回った学校</p>
<p><b>第 4 群</b> A・B 問題ともに全国平均正答率を下回った学校</p>	<p><b>第 3 群</b> A 問題は全国平均正答率を上回ったが、B 問題では全国平均正答率を下回った学校</p>

ア 小学校



## イ 中学校



### ① 小学校

- ・各学校におけるA・B問題の平均正答率の分布から、基礎的な知識の定着と活用力にはおおむね相関関係が見られる。
- ・平成28年度は27年度と比較すると、国語は第2群（A問題は全国平均正答率を下回るが、B問題は全国平均正答率を上回る）の学校が増え、第3群（A問題は全国平均正答率を上回るが、B問題は全国平均正答率を下回る）の学校が減っており、B問題は改善したがA問題に課題がある。算数は、第4群（A・B問題ともに全国平均正答率を下回る）が増え、第1群（A・B問題ともに全国平均正答率を上回る）の学校と第3群の学校が減っており、A・B問題ともに課題がある。

### ② 中学校

- ・小学校同様、各学校における平均正答率の分布から、基礎的な知識の定着と活用力にはおおむね相関関係が見られる。
- ・国語は座標の中心近くに学校が集まっているが、数学は縦に大きく広がり各学校間の学力差が大きいことが分かる。

○小・中学校ともに、A問題とB問題の平均正答率の分布には相関関係が見られることから、各学校においては言語活動を充実させ、低学年より計画的に基礎的な知識の定着と活用力の育成を図ることが大切である。

(4) 全国平均正答率との差異から見る各学校の経年推移<平成 27・28 年度の比較>

【資料 5】全国平均正答率との差異から見る各学校の経年推移表

出題される問題が毎年異なり、調査母体の児童生徒が異なること、測定できるのは学力の特定の一部であることから、今後数年の推移を見守っていく必要がある。

27 年度の全国と各学校の平均正答率の差と 28 年度の全国と各学校の平均正答率の差を比較

推移数値 ㊦:全国平均との差が大きく向上 ㊧:全国平均との差が向上 空欄:全国平均との差が大きな変化がない ㊨:全国平均との差が低下

ア 小学校 (条件; 27 年度または 28 年度の該当学年の調査実施児童数が 40 人以下の学校については、調査母体による影響が顕著となり、経年比較できないため公表しない。)

学校名	国語A	国語B	算数A	算数B
新宿			↗	
寒川			↘	↘
登戸	↘	↘	↘	↘
院内	↘			
蘇我	↘	↘	↘	↘
都	↘		↘	↘
都賀				
検見川	↗	↗	↗	↗
稲毛			↘	↘
園生	↘	↘	↘	↘
若松			↘	
大森	↗	↗	↗	↗
稲丘	↘			
花園				
懐橋	↘	↗	↘	
幕張		↗	↗	
長作	↘	↗	↘	
生浜	↘	↘	↘	↘
誉田	↘		↘	
轟町	↘			↘
鶴沢			↘	
平山	↘		↘	
松ヶ丘			↘	↗
宮崎	↘			↘
緑町	↘			↘
川戸				↘
山王		↗		↗
小中台	↘	↘	↘	↘
小倉	↘			
千草台	↗	↗	↗	↗
稲毛二	↘	↘	↘	
あやめ台	↘	↘	↘	↘
星久喜	↘	↘	↘	↘
幕張東	↘	↘	↘	
土気	↘	↗	↘	
桜木	↘	↘	↘	
宮野木	↘			
生浜西	↘	↘	↘	↘
こてはし台		↗		↗
さつきが丘東			↘	↗

学校名	国語A	国語B	算数A	算数B
北貝塚				
幕張西				
草野		↗		
柏台	↘	↗		
千城台東	↘	↘	↘	↘
小中台南		↘		
幸町三	↘	↘	↘	↘
高洲三		↗		
千草台東				↘
作新	↗	↗	↗	↗
みつわ台北			↗	
誉田東	↗	↗	↗	↗
みつわ台南	↘		↘	
幕張南	↘	↘		
都賀の台	↘	↗		↘
上の台			↘	↘
磯辺三	↘	↘	↘	↘
源				
朝日ヶ丘			↘	
生浜東	↘	↘	↘	
泉谷	↘		↘	↘
土気南			↘	↘
西の谷	↘	↗		↘
小谷	↘	↗		↘
大椎	↘		↘	↘
有吉	↘	↘		↘
打瀬	↘			↘
金沢		↗		
あすみが丘		↗	↗	↗
扇田	↘			↘
瑞穂	↘			
海浜打瀬				
おゆみ野南		↗		↗
美浜打瀬	↘		↘	↘
高洲	↘		↗	
真砂東		↗	↗	↗
真砂西		↗		
磯辺	↘	↘	↘	↘
幸町	↗	↗		↗

イ 中学校 (条件; 27 年度または 28 年度の該当学年の調査実施児童数が 80 人以下の学校については、調査母体による影響が顕著となり、経年比較できないため公表しない。)

学校名	国語A	国語B	数学A	数学B
加曽利		↘	↘	↘
末広		↘	↘	↘
葛城		↗		
椿森	↗			
緑町	↘	↘	↘	↘
小中台				
花園				
新宿				
蘇我				
幕張				
生浜		↘		
誉田			↗	
轟町				
松ヶ丘		↗	↘	
稲毛				↘
千城台西		↘	↘	↘
こてはし台			↘	↘
高洲一				
草野	↗	↗	↗	↗
幕張西				

学校名	国語A	国語B	数学A	数学B
都賀	↗		↘	↘
千城台南	↗		↗	
みつわ台				
緑が丘	↘	↘	↘	↘
天戸		↗	↗	↗
若松			↘	↘
幸町二				
山王				
朝日ヶ丘				
貝塚			↘	
泉谷				↘
幕張本郷	↘		↘	↘
土気南			↘	↘
打瀬	↘		↘	↘
有吉		↗		
大椎				↘
真砂			↘	↘
おゆみ野南		↗		
磯辺				
花見川	↘	↘	↘	↘



- ・28年度の小学校6年生、中学校3年生の平均正答率はおおむね良好な状態を維持しているといえるものの、各学校の平成27年度の全国平均正答率との差に注目すると、低下している学校が多い。

【資料6】平均正答率の顕著な向上が見られた学校の取組事例

＜平成27・28年度の経年推移の比較から＞

(1) 顕著な向上が見られた学校では、以下のような取組が報告されている。

ア 小学校

検見川	朝自習の積み重ねの成果（読書、ドリル） 少人数指導やT.T指導による個々へのきめ細かな支援・指導 ※T.T（Team・Teaching）指導とは、1クラスに複数の教師で指導に当たるなど、よりきめ細やかな指導を目指したもの。
大森	教師と児童、児童相互の信頼関係づくり 学習の個別指導と生活指導の充実 自己肯定感を育む言葉かけや認め合いの場 向上心を持って取り組む、落ち着いた学習態度
千草台	基礎・基本定着のためのドリル・プリントの反復学習 「行事ごとに作文を書く」「児童主体の掲示物を作成する」など文を書くことの 習慣化と充実
作新	ユニバーサルデザインを念頭に置いた国語と理科に力を入れた学習指導 短文を読み自分の意見を持ったり短文を書いたりする国語学習 週1回の計算チャレンジタイムによる計算の基礎力定着
誉田東	「読み聞かせ」や「語り」を多く取り入れた読書活動の推進 一人一人の考えを伝え合う場を多く取り入れたコミュニケーション能力の育成 家庭学習の手引きを配布し家庭の協力を得ることにより、家庭学習の習慣の定着
あすみが丘	国語・社会・算数・理科のノート指導の徹底（良いノートの見本を掲示） 学習姿勢や学習ルールの共通指導 学級経営の安定 学年の教師で見る学習や学年活動を取り入れたきめ細かな指導
真砂東	担任外の教員のサポートと個々に対応した少人数指導 習熟度別のきめ細やかな算数科授業 国語の校内研究による共通指導（3年目）
幸町	T.T指導などきめ細かな指導 毎朝の「全校読書タイム」による読書の習慣化、読解力の向上

イ 中学校

草野	学校全体で生活習慣の向上や学級の落ち着きを図る組織的な取組 授業のルールの確認と共通指導 週指導計画の細かな立案とT.Tによる指導 1日1ページノートの推奨による家庭学習の習慣化
天戸	学校評価アンケートによる基礎学力の重点課題の洗い出し 学習相談の時間の確保 めあてを明確にした授業の実施 職員の授業力向上のための職員同士の授業見学週間（前後期2回）

(2) 今後の学力向上に向けた他校の取組

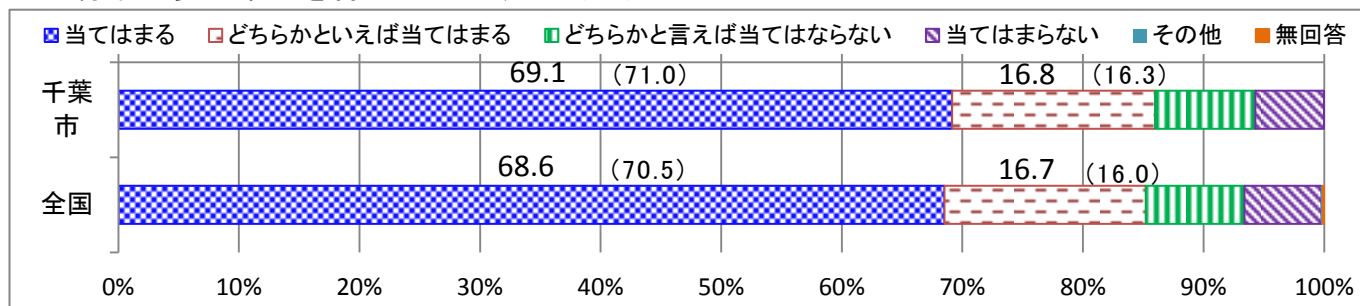
- ・児童のつまづきを見取るための細かな誤答分析
- ・個別の支援・指導体制の確立
- ・学習への意欲化を図る工夫
- ・児童に達成感を実感させるためのスモールステップによる授業実践
- ・児童の考えや意見を述べ合える場づくり、環境づくり
- ・家庭と連携した家庭学習の習慣化や規則正しい生活習慣の定着

### 3 質問紙調査結果概要

【資料7】児童生徒質問紙調査より〔千葉市・全国〕＜平成28年度＞

(1) 小学校6年生 ※文末の( )内の数字は、「児童・生徒質問紙調査」の質問番号、帯グラフの( )の数字は、27年度の割合を示している

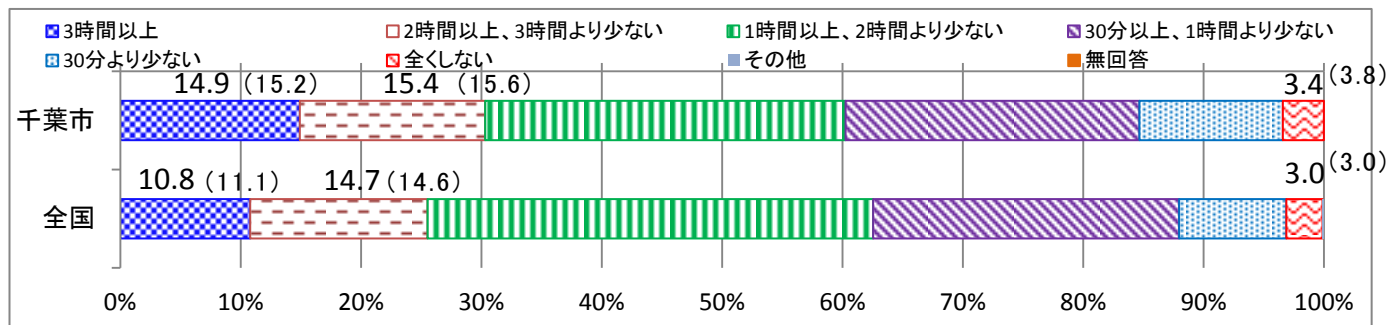
#### 1 将来の夢や希望を持っていますか(9)



○持っている、どちらかといえば持っている→85.9%（全国より0.6ポイント高い）

・これは、子供たちが自分の未来を見つめていけるよう「生活科」や「総合的な学習の時間」の授業を日々行っている成果と考えられる。さらに各教科等とつないだ「キャリア教育」の充実に努める必要がある。

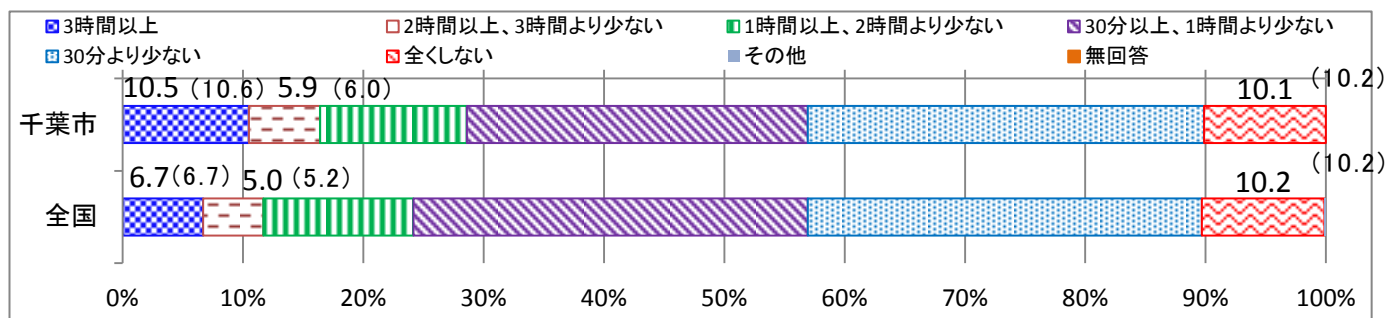
#### 2 学校の授業以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)(14)



○1日2時間以上勉強をしている→30.3%（全国より4.8ポイント高い）

全くしない→3.4%（全国より0.4ポイント高い）

#### 3 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)(15)

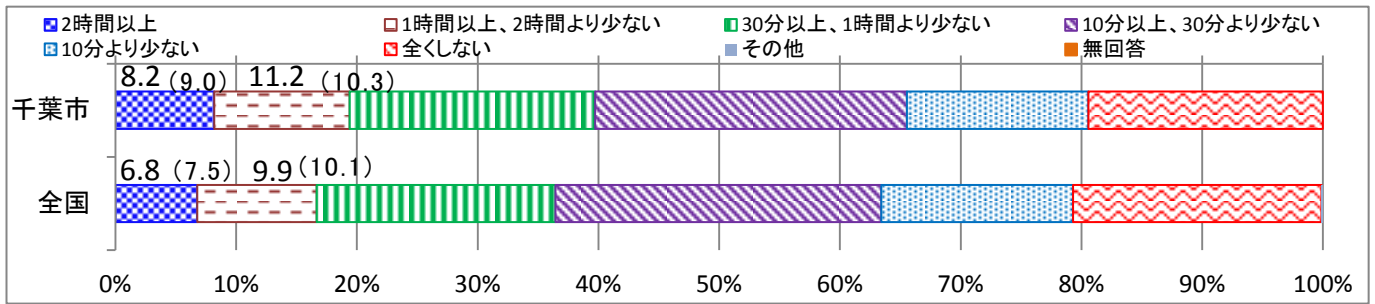


○1日3時間以上勉強をしている→16.4%（全国より4.7ポイント高い）

全くしない→10.1%（全国より0.1ポイント低い）

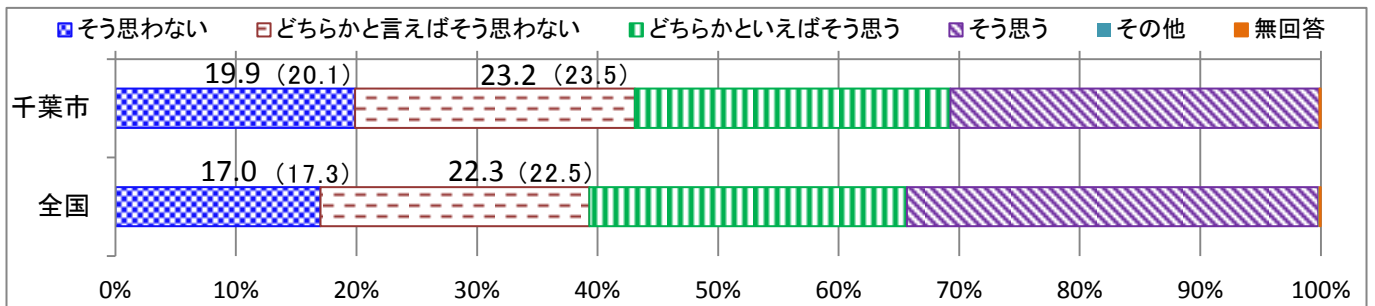
・設問2・3より、学校以外の時間に学習する児童としない児童の二極化の傾向が見られる。家庭学習の仕方を示して、家庭学習の定着を図る必要がある。

4 学校の授業以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)(17)



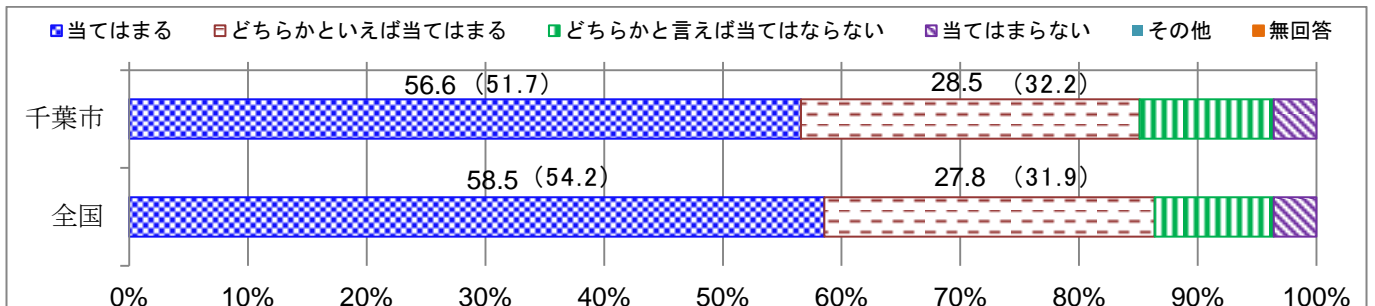
○ 1日1時間以上読書をしている→19.4% (全国より2.7ポイント高い)  
 ・これは、朝読書など普段から読書活動の推進や図書資料の活用を行っている成果と考えられる。A問題に比べ、B問題の平均正答率が高い本市の傾向の要因の一つとも考えられるので、より一層、読書教育の充実を図ることが大切である。

5 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか(57)



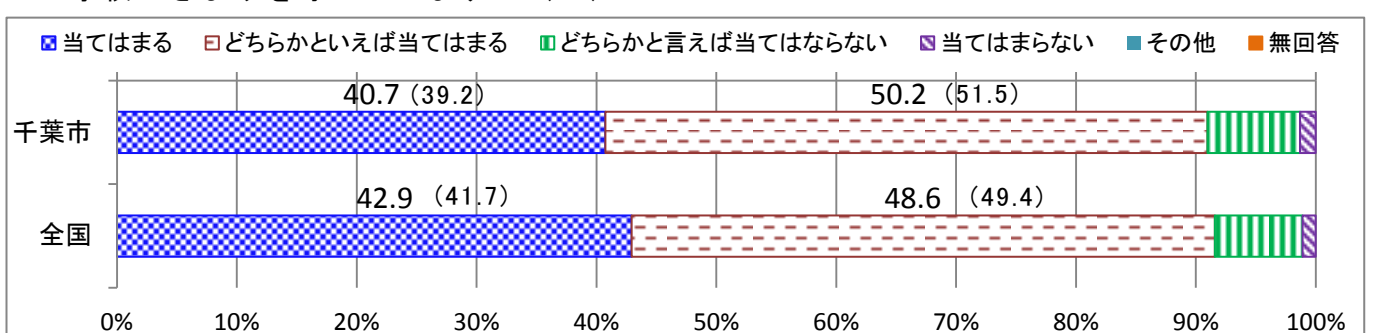
○書くことが難しいと思わない、どちらかといえばそう思わない→43.1% (全国より3.8ポイント高い)  
 ・国語をはじめ各教科等の学習で、言語活動を重視し書くことに力を入れてきたことが、進んで自分の考えを表現することにつながり、本市の国語A・B問題共に「書くこと」の平均正答率が高い結果の要因の一つと考えられる。

6 学級のみんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか(31)



○うれしかったことがある、どちらかといえばある→85.1% (全国より1.2ポイント低い)

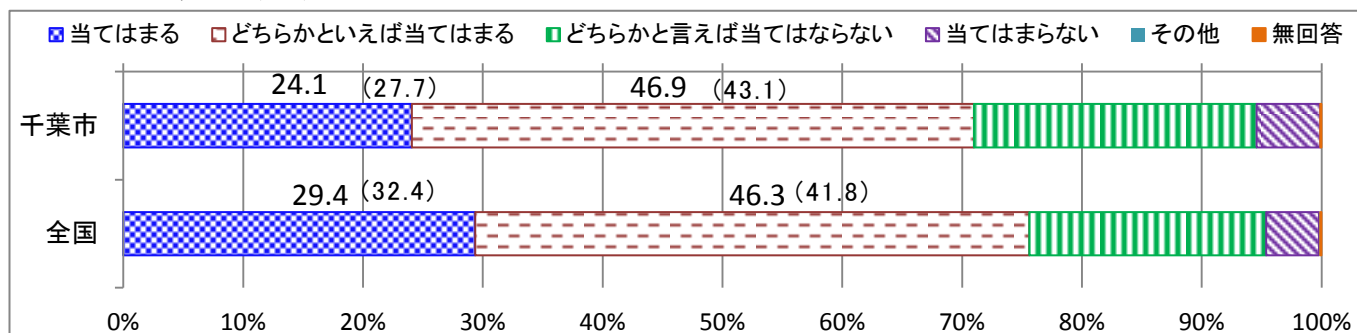
7 学校のきまりを守っていますか(39)



○きまりを守っている、どちらかといえば守っている→90.9% (全国より0.6ポイント低い)

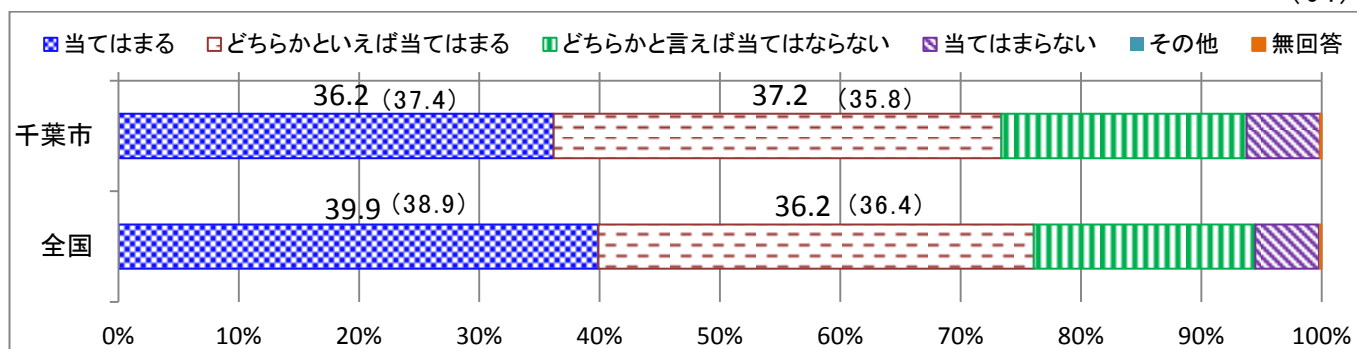
・設問6・7より肯定的な回答率は全国より低いですが、それぞれ、昨年度より1.2ポイント、0.2ポイント向上しており、規範意識や生活態度が向上している傾向が見られる。さらに、日常生活の中で集団や社会の一員としての自己有用感を持たせ、規範意識を醸成していく必要がある。

8 5年生までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか(50)



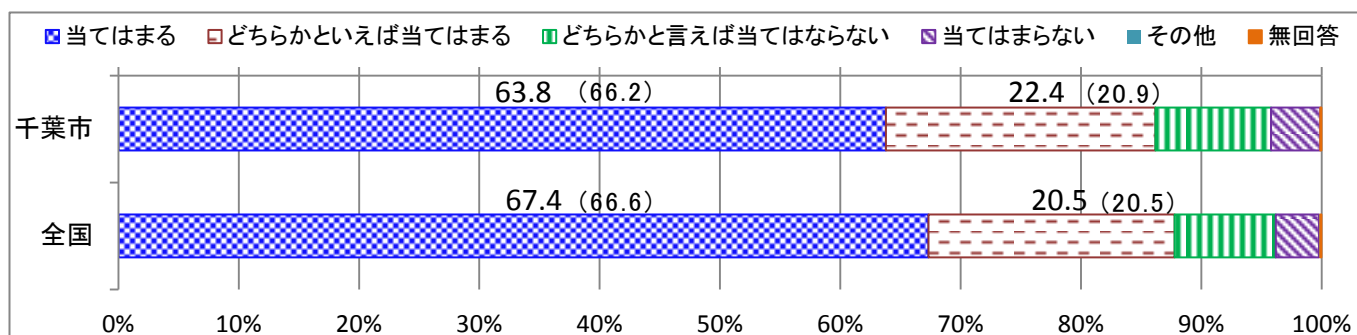
○取り組んでいた、どちらかというといと取り組んでいた→71.0% (全国より4.7ポイント低い)

9 5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか(54)



○行っていた、どちらかといえは行っていた→73.4% (全国より2.7ポイント低い)

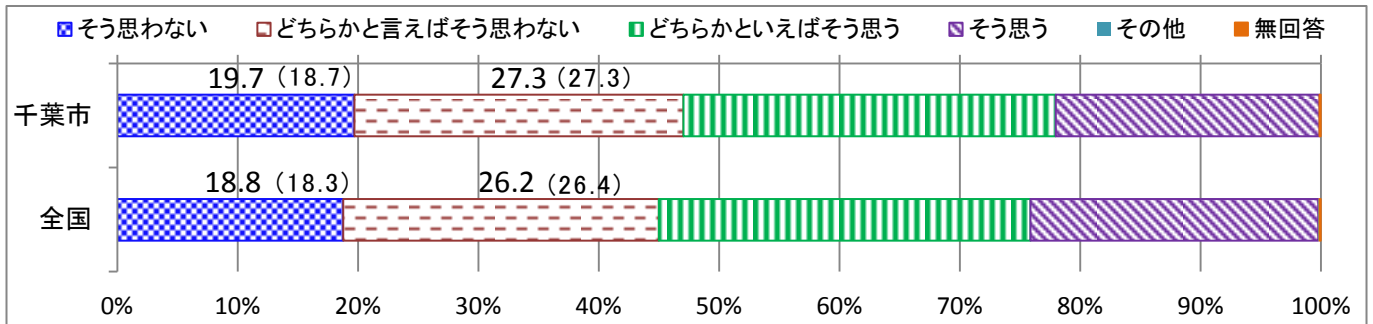
10 5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか(55)



○書いていた、どちらかというといと書いていた→86.2% (全国より1.7ポイント低い)

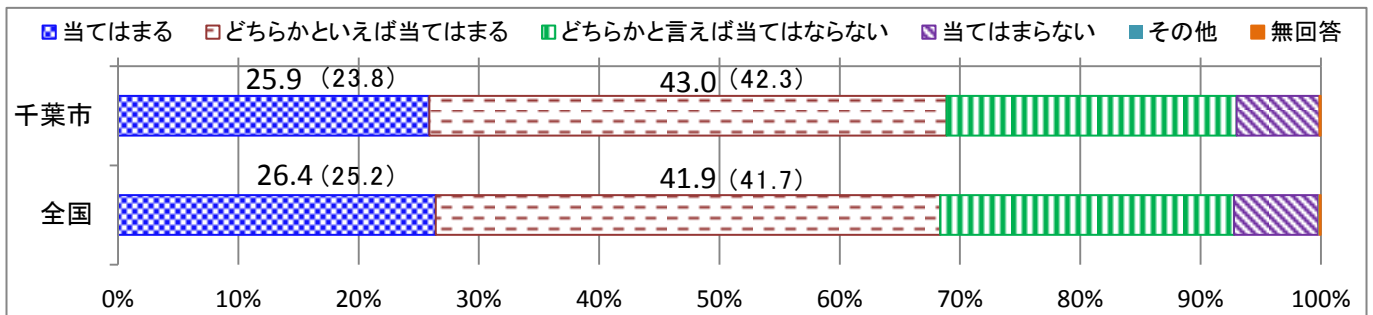
・設問8～10は肯定的回答率が全国より低い。授業の導入でしっかりとめあてを持たせ、最後に学習を振り返り、自分の学びを自覚するような問題解決型の学習を充実させる必要がある。また、学習を振り返る活動も大切にし、知識・理解の定着や見方・考え方が深まるような授業工夫を推進する必要がある。

11 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか（58）



○ 難しい、どちらかというとなし→47.0%（全国より 2.0 ポイント高い）

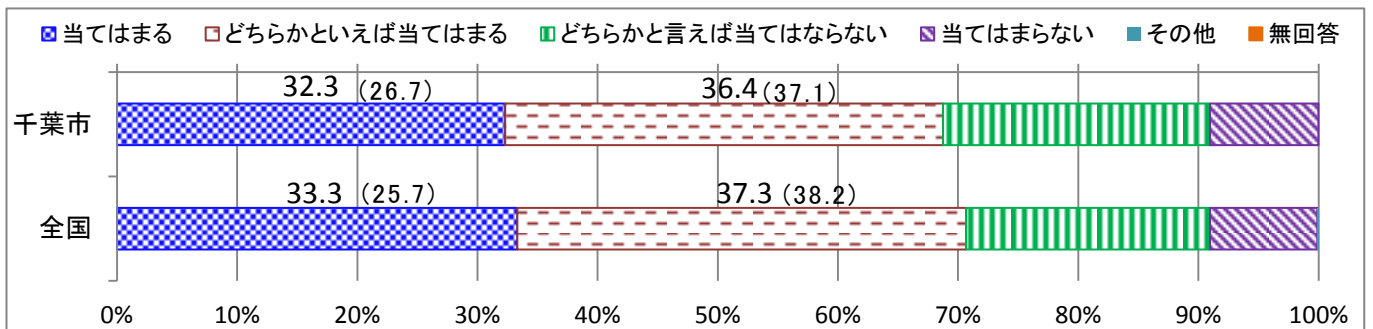
12 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか（59）



○ できている、どちらかといえばできている→68.9%（全国より 0.6 ポイント高い）

・ 設問 11・12 は肯定的回答率が高い。特に話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりしているという肯定的回答率は昨年度より 2.8 ポイント向上している。アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を日々行っている成果と考えられる。さらに、より深い学びができるような授業改善に努めることが大切である。

13 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか（35）

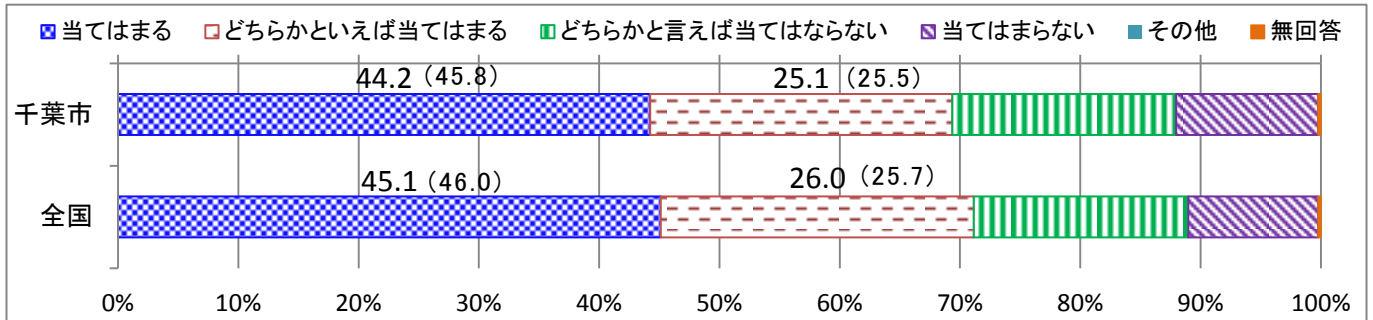


○ 関心がある、どちらかといえばある→68.7%（全国より 1.9 ポイント低い）

・ 昨年度と比べると肯定的回答率は 4.9 ポイント向上しており、今後も引き続き学習の中で地域の方と交流したり地域の問題を取り上げたりして、地域（社会）に関われた学校にしていく必要がある。

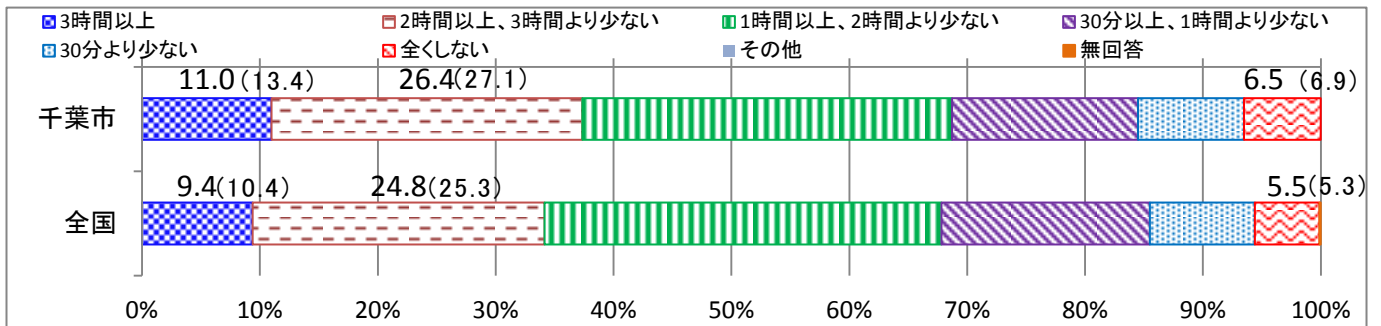
(2) 中学校3年生 ※文末の( )内の数字は、「児童・生徒質問紙調査」の質問番号、  
帯グラフの( )の数字は、27年度の割合を示している

1 将来の夢や希望を持っていますか(9)



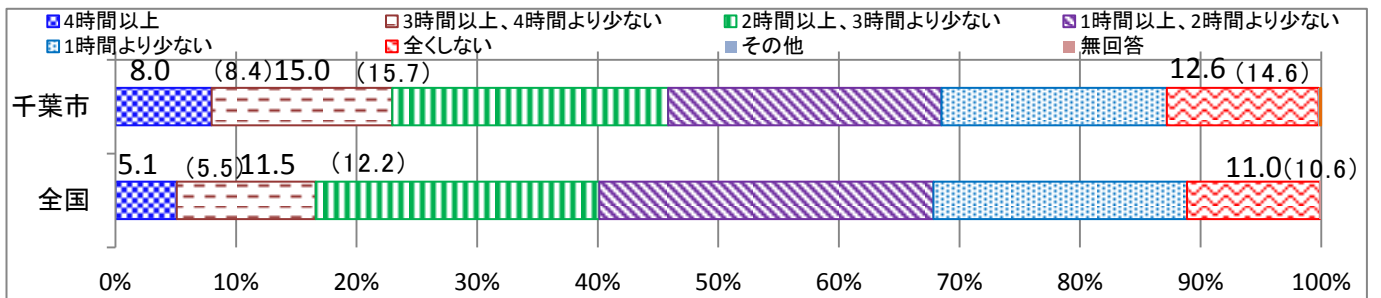
○持っている、どちらかといえば持っている→69.3% (全国より1.8ポイント低い)  
・自らの将来(仕事)像と夢や希望を結び付けることができるような「キャリア教育」の推進が必要である。

2 学校の授業以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)(14)



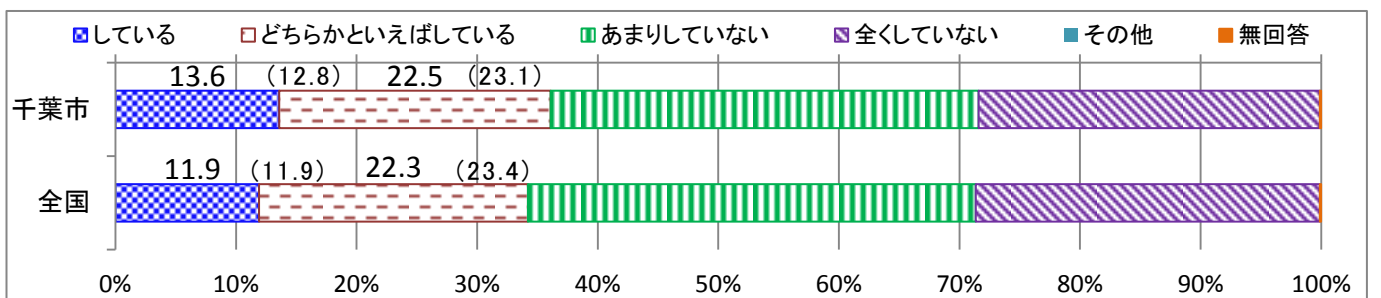
○1日2時間以上勉強をしている→37.4% (全国より3.2ポイント高い)  
全くしない→6.5% (全国より1.0ポイント高い)

3 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)(15)



○1日3時間以上勉強をしている→23.0% (全国より6.4ポイント高い)  
全くしない→12.6% (全国より1.6ポイント高い)

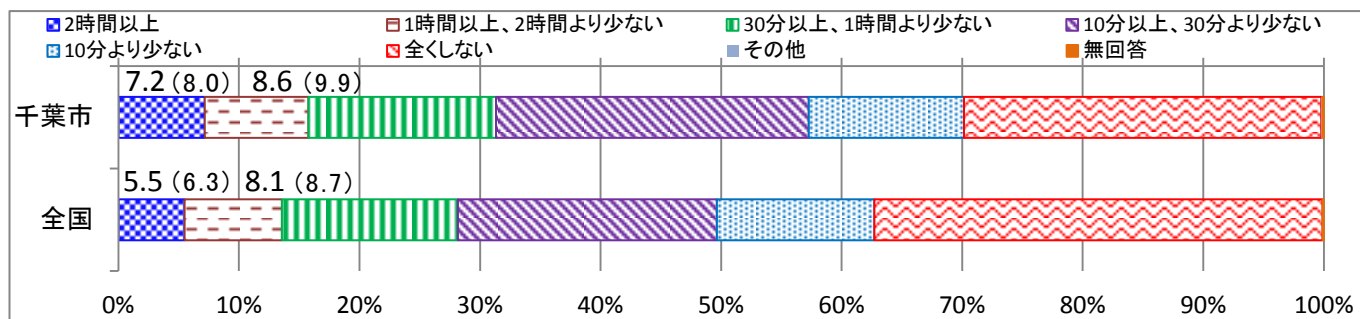
4 家で、学校の授業の予習をしていますか(23)



○予習をしている、どちらかといえばしている→36.1% (全国より1.9ポイント高い)

- ・設問2～4の肯定的回答率は全国よりも高いが、学校以外の時間に学習する児童としない児童の二極化の傾向が見られる。昨年度に比べるとそれぞれ1.6ポイント、3.4ポイント向上し、やや改善の傾向が見られるが、家庭学習の仕方を示して、家庭学習の定着を図る必要がある。

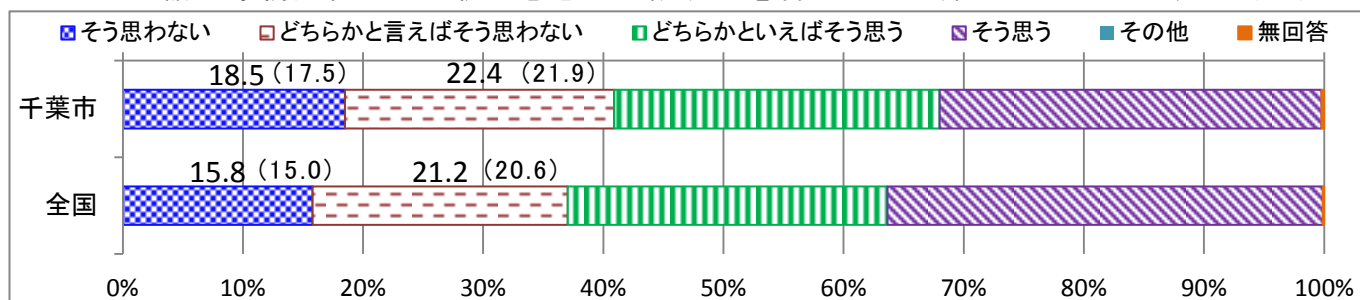
5 学校の授業以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)(17)



○1日1時間以上読書をしている→15.8% (全国より2.2ポイント高い)

- ・国語にかかわる意識調査の「読書が好き、どちらかといえば好き」と回答した生徒の割合も72.6ポイントと全国の割合69.9ポイントより2.7ポイント高い。朝読書の推進や授業の中での図書資料活用の成果である。B問題の平均正答率が高い本市の傾向の要因の一つとも考えられるので、さらに読書活動の充実を図ることが大切である。

6 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか(57)

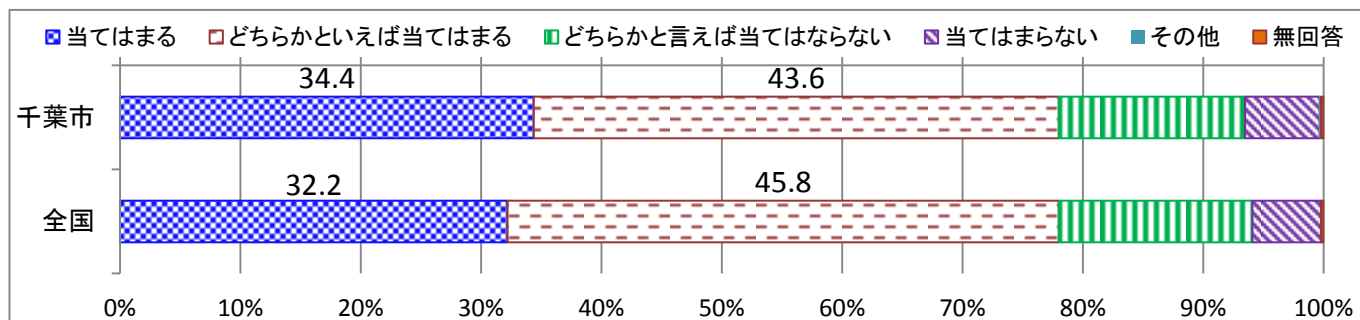


○書くことが難しいと思わない、どちらかといえばそう思わない→40.9%

(全国より3.9ポイント高い)

- ・国語をはじめ各教科等の学習で、言語活動を重視し書くことに力を入れてきたことが、書くことへの抵抗感を減らしている要因の一つと考える。

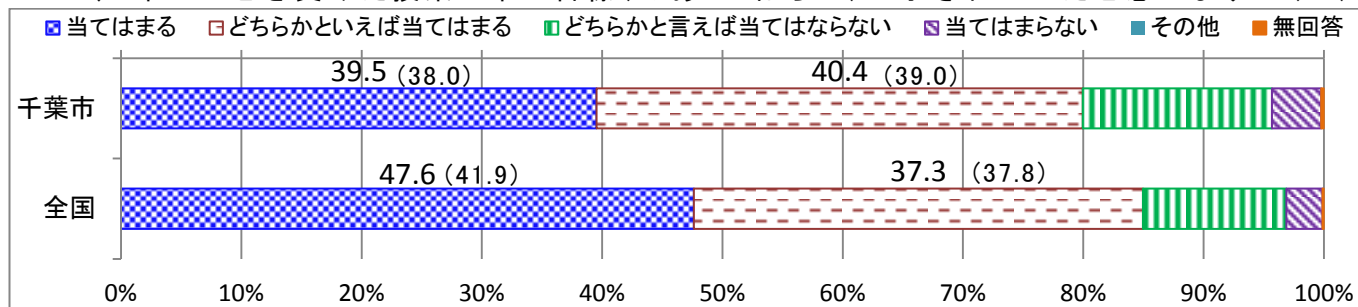
7 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか(32)(H28年度より新設)



○よいところを認めてくれている、どちらかといえばそう思う→78.0% (全国と同等)

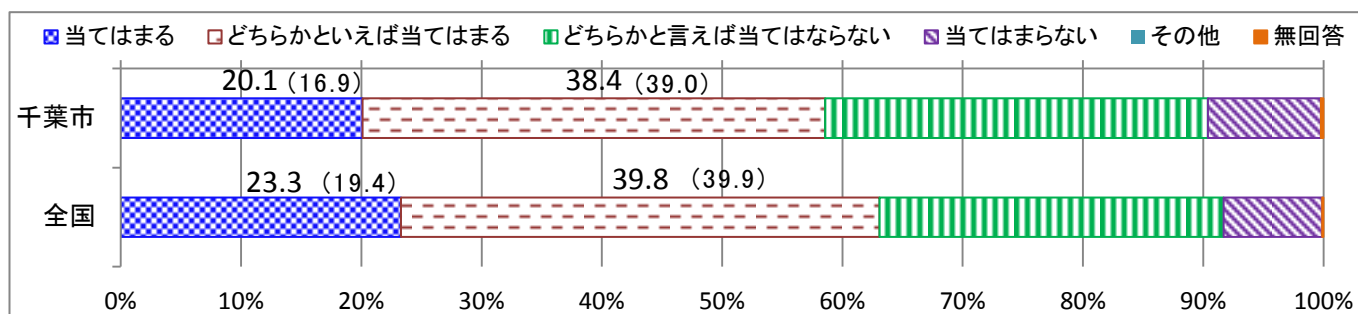
- ・特に「認めてくれている」という回答は全国の割合を2.2ポイント上回っている。生徒の自己肯定感を高め、生活態度や学習習慣の向上につなげていくために、さらに、生徒への肯定的な評価を心がけていくことが大切である。

8 1、2年生のとき受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか(53)



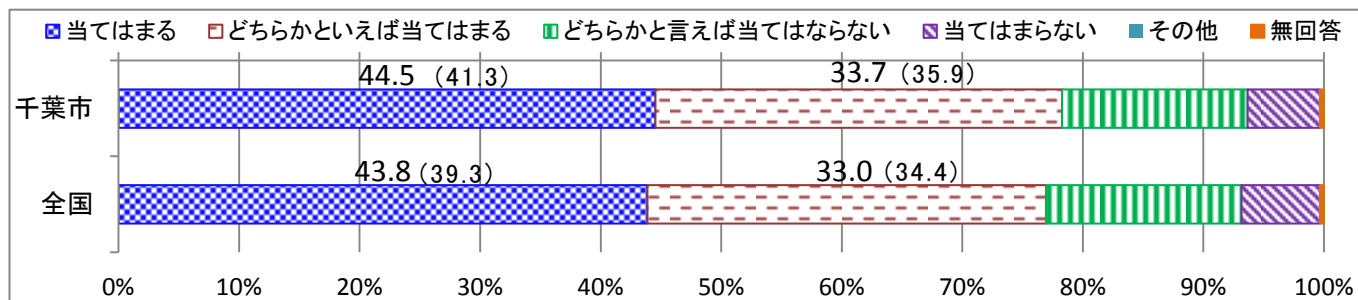
○示されていた、どちらかといえば示されていた→79.9% (全国より5.0ポイント低い)

9 1、2年生のとき受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか(54)



○よく行っていた、どちらかといえば行っていた→58.5% (全国より4.6ポイント低い)

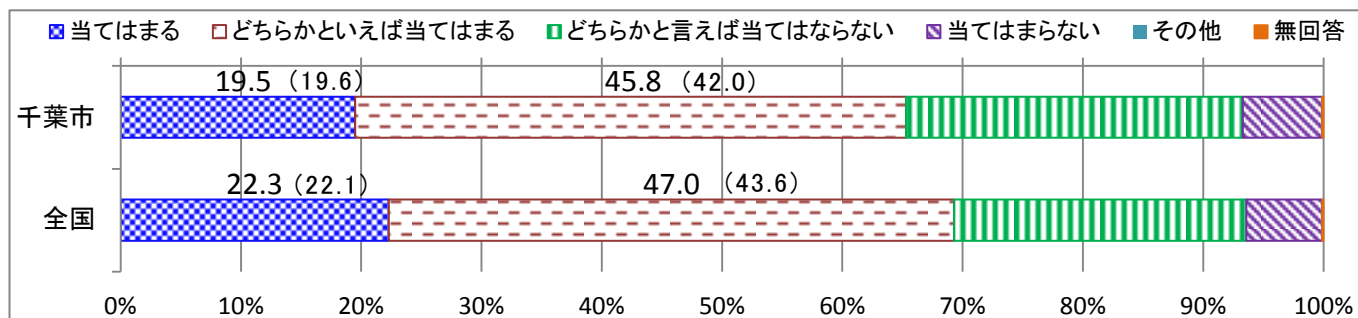
10 1、2年生のとき受けた授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか(55)



○書いていた、どちらかといえば書いていた→78.2% (全国より1.4ポイント高い)

・設問8・9より、授業の中でねらいを示したり、振り返りの活動を行ったりすることが、全国の割合より低い、設問10より生徒がノートに目標やまとめを書く割合は全国より高いことが分かる。昨年度と比べると、それぞれ2.9ポイント、2.6ポイント、1.0ポイント向上しており、授業における教師と生徒の目標やまとめ・振り返りへの意識が高まっていることを示している。

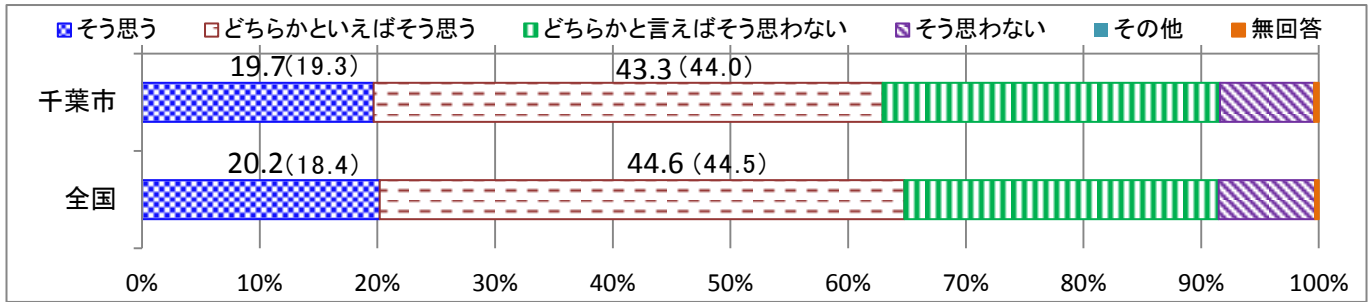
11 1、2年生のとき受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか(50)





○取り組んでいた、どちらかといえば取り組んでいた→65.3%（全国より4.0ポイント低い）

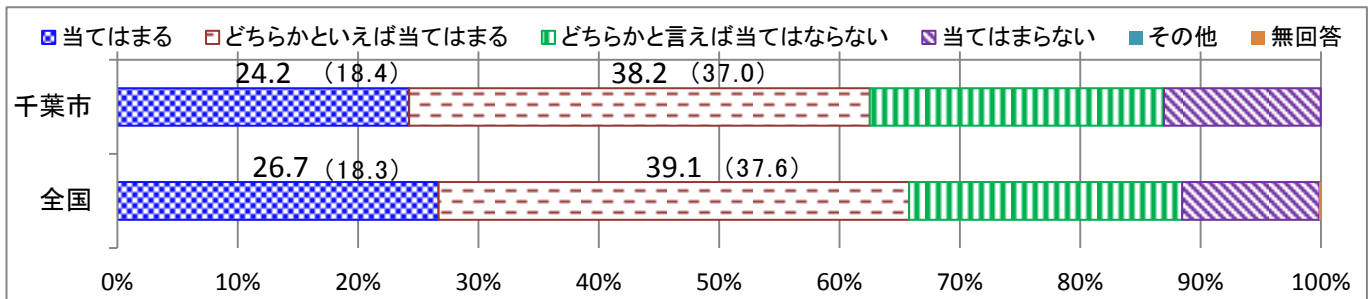
12 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか（59）



○できている、どちらかといえばできている→63.0%（全国より1.8ポイント低い）

・課題解決型の学習活動を取り入れ、授業改善の成果は表れてきている（設問11は昨年度に比べ3.7ポイント向上）ので、さらに主体的・対話的で深い学びを実現するためにも、引き続き授業改善に取り組む必要がある。

13 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか（35）



○関心がある、どちらかといえばある→62.4%（全国より3.4ポイント低い）

・肯定的回答率は全国より低いですが、昨年度より7.0ポイント向上しており、今後も引き続き学習の中で地域の方と交流したり、地域の問題を取り上げたりして、地域（社会）に開かれた学校にしていく必要がある。

#### 4 今後の取組

- (1) 教職員の指導力向上を通して、「わかる授業」を一層推進し、確かな学力の育成・定着を図ることができるように、教職員の指導力向上を支援していく。
  - 学校における課題改善に資するデータと今後の指導改善の方向性やポイント等を各学校に示す。
  - 各学校が調査結果を分析して授業改善に生かすように、学校訪問等を通して、指導・助言を行う。
- (2) HPや「教育だよりちば」等を通して、家庭での児童生徒の望ましい生活習慣の育成や地域社会への理解とかかわりを深めることの大切さを発信する。